

# 発根を促す応急処置「葉面散布剤」

## 葉面散布のねらい

有機栽培では、アミノ酸肥料や堆肥の他に、補助資材として微量元素やアミノ酸の葉面散布剤を使うことがあります。葉面散布は収穫物の品質向上や草勢や樹勢が弱いとき、根の機能が低下したとき、生理障害が現われたときなどに、速効的な効果を期待して使われています。アミノ酸は、植物の葉や果実に使われる品質向上用のものよりも、発根作用を促進するものを使います。そして、葉面散布して数時間のうちに根に運ばれて、翌日には何cmか根が伸びているくらい分子構造が小さくて動きの速いものを使う必要があります。葉面散布は早急に手を打たなければならない場面を使う手段だからです。そして発根を促す葉面散布を行なうのは、根の周りのアミノ酸肥料やミネラル肥料を十分に吸えるよう根を伸ばして、その後の生育を助けることが目的なのです。

葉面散布剤でよくある思い違いは、葉面散布剤がチッ素肥料源として吸われて作物が元気になるのだということです。葉面散布のチッ素量は少ないから、そのチッ素が葉や茎、実のタンパク合成に直接関わることは少ないのです。葉面散布で発根を促すから、それで肥料が吸われ、その肥料が作物を大きくしているのです。

## 葉面散布の前にすること

問題は、葉面散布で根は出たけれど、その根の周りに吸われるためのチッ素や石灰、苦土といった養分がきちんと施されているかどうかということです。何もなければ、根は伸びても何も吸収できないで終わってしまいます。だから葉面散布する前に、吸収させたい養分をバランスよく施肥しておかなければなりません。そして、土の中に肥料分が届いた頃に葉面散布をします。すると伸びた根が肥料分を吸って、一気に樹勢は回復することになります。具体的には、葉面散布する前に肥料をまいて、灌水するなり、耕運して、根の近くにアミノ酸肥料やミネラル肥料をバランスよく施しておくといいでしょう。そして、発根促進に関わるアミノ酸を葉面散布することです。

## 気象災害時の葉面散布

葉面散布には、生育を早めたり、登熟を早めたりという時間を短縮する効果があります。さらに日照が不足して、根が伸びないとき、生育が遅れているときなどに活用すると回復を早めることができます。とくに近年多くなってきた台風などの気象災害時にも大きな効果を発揮してくれます。たとえば、台風（風害）によってリンゴなどの果樹が傷んでいるようなときは、肥料を散布して、その後で葉面散布を行なうことで、樹勢の回復に役立てることが出来ます。

## ミネラル欠乏症状が発生した場合の応急処置

ミネラルの欠乏症状は、作物の葉に特有な症状をみせます。また、鉄欠乏は葉だけでなく、作物の根に症状がでますので、蔬菜類であれば、根を掘り起こしてみることが大切です。

症状が確認できたら、直ちに施肥履歴や土壌分析で欠乏しているミネラルが何であるかの確認をおこなう必要があります。欠乏しているミネラルが確認できたら追肥を土壌に施すことと、葉面散布を緊急的におこなってあげると良いでしょう。根から吸収させると、作物全体に到達するには時間がかかりすぎますので、葉面散布で応急処置をおこない、不足する成分を直接葉から吸収させてあげるようにしてください。しかし、葉面散布の効果も2・3日しかありませんので、土壌から吸われてくるまでは、数度となく、葉面散布を行う必要があります。難溶性の肥料であれば、クエン酸などで溶かしてから葉面散布してあげると良いでしょう。